紙面から

教育随想
「私の先生頌」
岡崎国立共同研究機構　機構長
濱　清　氏
この人に聞く
石仏師　長岡　和慶　氏
特集
「中学校の変遷五十年　その二」
師弟同行
稲垣　博・大山康弘
フォト・ヒストリー岡崎の教育
生徒も協力―葵中校舎建設

1月号

平成10年1月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会

（おばあちゃんってすごい！ ― 岡崎小）

―教育随想―
私の先生頌

岡崎国立共同研究機構
機構長
濱　清

人は一生の間まわりから教えを受け学習しながら成熟していく。教えて呉れる人も物もすべて先生といってよい。人生のそれぞれの時期で先生の持つ意味は当然異なっている。幼児期には、親兄弟、遊び友達、そして犬猫、蝶など身近な動物や自然も大切な先生である。心身が成長し感受性が豊かになる青少年期に教えを受ける学校の先生方が大切なことは言うまでもない。卒業は人生と学問の修行のはじまりと言ってよく、先生も古今東西に拡がる。年を取ると若い人たちに学ぶことが多くなるが古典も大切である。但し先人の言葉を暗記しただけでは学んだことにならない点を銘記すべきである。人生には良い師だけでなく、悪い反面教師も大切であり、道徳、修身のお手本のような先生ばかりでは豊かな人間性は育たないのではなかろうか。

私にとっての大切な先生として先ず思い浮かぶのは、一緒に遊んだ川魚掬いやメンコの名人だった子供たちである。そこではじめて自然や仲間との付き合い方を学んだと思う。読み書きの他に山歩きの楽しさを教えて下さった小学校の先生、目を瞑って漢文の素読を聞いて下さった中学の先生、人体の機能と構造の美事な調和を教えて下さった解剖学の先生、卒業後は、新しい細胞生物学の世界への目を開いて下さった海外の先生方など、直接指導を受けた皆様の教えは私にとって最も貴重な宝物である。

最後に最近強い感動を受けた若い先生たちのことを付け加えて終わりたい。或る大学の生命倫理学のコースで、尊厳死、延命処置、ＱＯＬ（生命の質）など死に方を択ぶ個人の権利についてコメントすることを求められたときのことである。私は生命倫理の基本は命に対する尊敬と愛に尽きるとの信念を持っている。この信念は長崎での原爆直後の被災者救護および大陸、南方からの引揚者キャンプでの医療に参加した経験から生まれたものである。

最後まで生きることを望みながら、苦しみの中で何ひとつ有効な治療を受けることができないで死んで行った幾百の人たちに対する医師としての罪悪感と無念さに裏付けされたものなので、死に方を択ぶ権利というテーマとの矛盾に苦しんだ。その時私を救ったのは学生たちのリポートだった。障害児の施設に実習に行った学生たちは、障害児に対するひたすらな愛から、彼らを支え守っている施設の職員と親たちの姿を見ると、尊厳死、ＱＯＬなどというのは健康な人間の傲慢な思い上がりに聞こえると書いていた。また或る学生は和歌山県の山村には、障害児が生まれると一家を守る福子として大切に育てる風習が残っていると記していた。このような素晴らしいことを若い学生たちに教えられ生き返る思いがした。

（はま　きよし）

趣味を生活の糧に

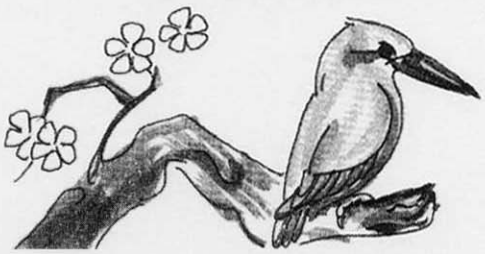
愛宕小学校長
簗瀬　三吉

毎年、四月から十二月までの九か月間の海釣りは、私の趣味の一つである。釣りについては、小中学生時代の川釣りに端を発している。海釣りに転向したのは、子供が小学生低学年のころ、家族で行楽を兼ねて投げ釣りに行きだしてからである。渥美の浜で家族共通のものにしたのである。子供一人一人に専用の竿を持たせ、自分で餌付けから全てをさせて、キスやメゴチを追っていたころのことが十数年経った今でも話題にのぼる。

さて、海釣りが趣味として本格化したのは、職場の先輩に誘われて、仕立て船で大物釣りにでかけ、船酔いにはあったものの鯛が釣れ、その時の強烈な感動をあじわってからである。しかも、学校では、研究発表

ふるさとシリーズ

この人に聞く



石仏師

長岡　和慶　氏

柔らかく、優美な姿を持つ石仏。無言の中にも、人々の心をつかんで離さない尊いものを感じる。そんな石仏を制作する日本でも数少ない石仏師の長岡氏を訪れ、お話を伺った。

同氏は北海道生まれであるが、石の修業をしていた兄の勧めで、石の本場岡崎で修業を始めたのが二十年前。それから今日まで仏師の道を歩み続けているとのこと。

「初めは、休日どころか休憩もなし。毎日のみを打ち続け、夜は、デッサンに明け暮れました。そして、自分の目を高めるために、興福寺の仏像など、多くの本物を見て回りました。写真は、平面的なものなので立体的には見えない。だから、とにかく目の中に焼きつけてきました。そして、実践でしくみを組み立てていきました。」

と、修業時代のことを熱っぽく語られた。

自分が今作っているものが最後だという思いで日々精進を続けておられる同氏が、大英博物館に石仏を寄贈するきっかけとなったのは、

「研修旅行中に、大英博物館を訪れたのですが、人類の五十世紀の足跡がそのまま残り、それらの秘宝が私に語りかけてくるんですよ。驚きましたね。後世の人が判断することですが、自分の石仏も数百年後、人々に何か訴えることができればと思ってね。」

と語られた。自分の持った才能と努力でここまでこられたわけだが、

「苦しいとき、大変なときは、いつでもありますね。でもそんな時、仏像が出てきて救ってくれるんです。自分が作った仏像ではなく、二千五百年続いている仏教の中から出てくる御仏に救われるんです。」

と語り、その道を貫いてこられた人ならではの重みのある言葉に感じた。

「不可能に近いことですが、曼陀羅の世界を立体的に表現してみたいですね。」

と大きな夢も語られた。

石仏師「和慶」の名前には、「柔らかく、穏やかな状態で喜びを伝えるということで、御仏を作る心の状態を表す」という意味が込められているそうだ。

本質を踏まえながらも独創的な石仏を常に追い求めておられる姿に、この道一筋に生きる人間の強さを感じた。

（氏　名　ながおか　わけい
生年月日　昭和三十年十一月八日
住　所　東牧内町字堤外六十の一）

に向けて、連日、研究研究で頭の中はいっぱいであり、かた時も開放されることがなかった。そんな折りでの釣りであったが、釣り糸を海中に垂らしている間、ただただ釣れてくる魚のことだけを考えていた。翌日からは、もとの研究の日々に戻ったが、気分はリフレッシュされ、やる気も以前に増して強くなっていた。

それ以来、大物釣りに魅せられて十五年、毎年シーズンになるのを心待ちにしている。多用であればあるほど、釣りの衝動に駆られる。行けても年に数回程度ではあるが、このことが心身に潤いと活力をみなぎらせてくれる。ひたすら指先から垂らす釣り糸に、全神経を集中させ海底に潜む魚に思いを馳せる。棚取り、誘い、あわせ、手返し、しかけなどの工夫とありとあらゆるテクニックを駆使して、魚の習性に応じて攻める。狙い魚はあるのだが、上がってくるまでは何が釣れているのか分からない。結果は次への課題として必ず生かすように心掛けている。

これからは、趣味でリフレッシュし、趣味を教育や生活に生かすことが、今まで以上に求められるようになってきているのではなかろうか。

▲少年自然の家での野外活動学習開始（常磐中・昭和52年）

中学校の変遷50年 その2

昭和五十一年度～現在

昭和四十八年の「石油ショック」を境に、日本経済は低成長時代に入り、環境破壊や物質万能の風潮などに対する反省から人間尊重の気運が呼び起こされた。

昭和五十年代になり、日本の学校教育で初めて「ゆとり」が課題となった。「学校裁量の時間」が生み出されたのもこの時期である。地域の特色や伝統を生かした学校行事や特別活動が実践され、自然環境の保護活動や学校緑化運動の長年の努力が、広く認められていった。また、昭和五十一年、「岡崎市民憲章」制定を契機に、生涯教育としての社会教育が盛んとなった。

昭和六十年代以降、生徒のいじめや登校拒否の問題が、教育現場に暗い影を落とした。また、平成三年から校則の見直しが始まり、頭髪の自由化などが進んだ。平成四年から、学校週五日制に向けての段階的な導入は、生徒にゆとりの時間を確保し、豊かな体験を通して「生きる力」を育むことをねらいとして進められている。

平成六年から岡崎市は、二十一世紀にたくましく生きる子供たちの姿を求めて、行政と学校現場が一体となってマルチメディアを活用した学習の構築の研究を進めている。

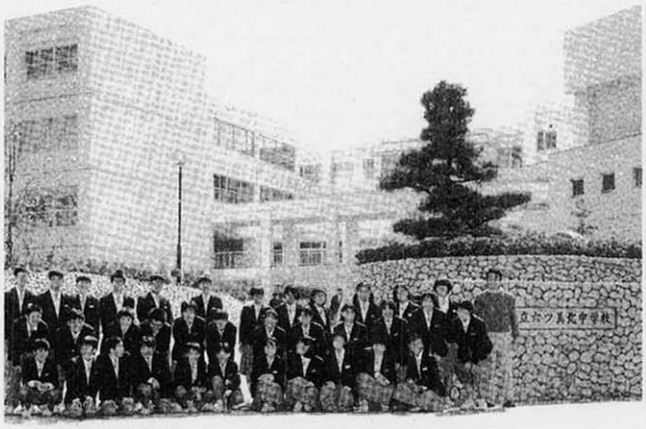
戦災と物質不足の中で新学制が実施されて五十年が経た今、新たな五十年に向けての第一歩がスタートする。市内十八の中学校が、「未来」に向かって大きく羽ばたいていく。

▲LL装置の設置（竜海中・昭和56年）

▲パソコン教室の設置（美川中・昭和63年）

▲フフホト市との友好記念碑（北中・昭和63年）

▲新香山中開校（新香山中・昭和59年）


▲六ツ美北中開校（六ツ美北中・平成4年）

▲生徒総会「頭髪の自由化」（福岡中・平成3年）

▲河川美化活動（矢作北中・平成9年）

▲選択授業「竜南タイム」（竜南中・平成8年）

52・5　・少年自然の家開設
　　―小中学校の野外学習開始―
55・9　・中学生親善使節団ウッデバラ市訪問
56・4　・矢作北中学校開校
　　鉄筋コンクリート造り三階建ての屋内運動場完成
56・10　・LL教室が河合、竜海、甲山に整備
　　三か年計画がスタート
58・3　・矢作、城北、六ツ美に鉄骨二階建てのクラブハウス設置
59・4　・新香山中学校開校
　　（旧香山中と岩津中の一部）
59・4　・全中学校へパソコンを設置
59・4　・アメリカ・ニューポートビーチ市と姉妹提携
60・4　・「ハートピア岡崎」開設
61・4　・竜南中学校開校
62・6　・第一回岡崎市中学生弁論大会
62・10　・第一回日米教師交換研修
　　（ニューポートビーチ市と）
63・4　・北中学校開校
63・7　・改訂中学校通知票試行
63・7　・第一回市中学校友好都市訪問使節団
　　フフホト市訪問
63・11　・美川中学校にパソコン教室設置
平成
2・2　・第一回学校文化賞授賞式
2・5　・第一回松下視聴覚研究賞文部大臣賞
　　甲山中学校
2・8　・市内中学校へ英語指導助手二名の派遣開始
3・4　・一学級四十人学級の完全実施
3・7　・頭髪の自由化
4・4　・六ツ美北中学校開校
4・9　・学校休業日の制定（第二土曜日）
5・4　・中学校新学習指導要領の完全実施
6・7　・渇水のため、小中学校水泳大会中止
6・10　・第四十九回国民体育大会愛知県大会参加
6・11　・通信・放送機構岡崎リサーチセンター開所
7・9　・VOD利用実践（市内三十校）
7・11　・TV会議システム利用実践　美川中
8・4　・市制八十周年記念「メディア　アドベンチャー」開催

やる気を示すことって

秦梨小学校
梅村　京子

「先生、ドッジボール大会に参加していいかな。」

九月の下旬、A男が相談をもちかけてきた。秋の市民祭りの一環として行われる小学生ドッジボール大会に参加したいというわけである。

全校八十二人の小さな学校。その中の十七人の五年生であるが、さっそくその日から大会にむけて練習が始まった。

「相手の足元をねらうんだ。」

「パスで追いつめるんだ。」

放課は毎日、ドッジの修業。リーダー役のA男は、言い出しっぺとしての責任から人一倍はりきっている。そんな子供たちを見ながらうれしさいっぱいになった。

四月、学級代表委員にだれも立候補がなかった。

「委員なんてたるいよ」

と口々に言う子供たちを目の当たりにして、やる気を示すことを教えなければと思った。

進んで活動した子や進んでアイデアを述べた子を賞賛し、言い出しっぺを褒めたたえた。可能な限り子供たちの意見を取り入れ、楽しい学級行事を組み入れた。同時に放課は、必ずみんなで遊ぶように声をかけてきた。そんな中でやる気を示すことの大切さに気づき始めた子供たちであった。

十一月二日、ドッジボール大会で見事に三位入賞。十七人全員で練習を続け、全員で勝ち取った勝利であった。A男の満足気な笑顔が光る。言い出しっぺ万歳である。

温かい心に包まれて

南中学校
大山　康弘

きらりと光る稲垣先生の涙。二十五年も前のことですが、今でも鮮明に憶えています。

中学二年の秋。清掃中に遊んでいた私に、

「生徒会長をやっている者がそんなことでどうする。廊下に出て、立っていろ。」

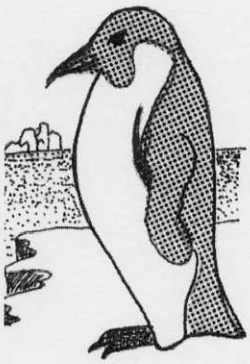
と先生の声。五、六限が過ぎ、帰りの会を終え、職員室に戻られる先生に謝りました。

「先生、すみませんでした。思い切りなぐってください。」

先生は、私の目をじっと見つめられました。そして、先生のやさしい瞳からは、涙が。

山あいの小さな中学校だから、大きな中学校に闘志を燃やす、その推進役が先生でした。英語、卓球と本当に熱心にご指導していただきました。こつこつと粘り強く、温かいハートで、いつでも期待をしていてくださる。田舎の中学生に「やればできる」という自信を育てていただきました。そんな大好きな先生を裏切ってしまった自分自身が情けなくなった出来事でした。

先生との思い出は私の人生の糧となっています。先生のような教師になれるよう、頑張っていきたいと思います。



やればできる

前常磐中学校長
稲垣　博

貴兄との出会いは、私が血気盛んな三十四歳の時。ご指摘の出来事は、全く覚えがありません。それよりも、一、二年と持ち上がり、三年生を受け持たずに転任して、淋しがられたことが強く印象に残っており、今でも心が傷みます。

思えば、貴兄は生徒会長を務める優等生でした。そんな生徒に、まして、清掃をさぼったくらいで激怒するなんて……。恐らく、貴兄の正義感、責任感が私にそうさせたと思われます。

当時、常中生は素直で純朴な良い子ばかりでした。ただ向上心やたくましさに欠けるきらいがありました。そこで、「やればできる」を体験し、自信を持たせ、何事にも消極的な姿勢を払拭したいと願い、燃えていたように思います。

貴兄が教師の道を選んでくれたことをうれしく思います。貴兄の健康、明朗、親切で、正義感、責任感も強く、人間性豊かな人柄は、教師として不可欠な条件だと思います。

今日、教育は大きな岐路に立ち、教師の使命はますます重大です。特に「心の教育」が叫ばれていますが、一人一人を思いやり、愛情と熱意で生徒の心を揺さぶる指導が原点と考えます。祈る、精進！

お知らせ

◆教育文化賞

（個人）

◇松原晄三氏（六十三歳）

上地小学校在職中、地域文化の掘り起こしを進め、ふるさと意識の高揚に努めた。東京学生寮長就任後は、寮生との心のふれあいを大切にした指導を続けている。

◇杉浦　卓氏（六十二歳）

竜美丘小学校の体験学習の場として学校田、みかん園の設営に尽力した。自ら農業の研究を進めるとともに、児童に実際の米作りなどの指導を続けている。

（団体）

◇岡崎文学会

昭和五十八年に『文芸岡崎』を創刊して以来、十五年にわたって文学作品の発表の場を提供している。多くの市民からの作品が寄せられ、市民文化の向上に貢献した。

◇矢作北中学校生徒会

昭和五十九年以来、矢作川河川敷と矢作公園の美化活動を続けている。薄墨桜の植樹や世話、地域の道路清掃、ごみの分別収集の意識高揚などにも努め、自然保護活動を推進している。

◇常磐中学校ＰＴＡ絵画・陶芸クラブ

昭和五十三年に発足して以来、作品作りを通して会員相互の心のふれあい、学校との連携を深めてきた。独特の「常磐焼」を作り出し、その制作を続けている。

◆第四十五回統計グラフ全国コンクール

・パソコン統計グラフの部

特選　城北中二年　東脇　悠

入選　六ツ美北中二年　八重樫伸也

・小学校四～六年の部

入選　竜美丘小六年　見並良治

◆第二十三回私のアイデア貯金箱コンクール

郵政大臣賞

連尺小三年　赤松史織

◆第四十二回ソニー教育資金贈呈校

最優秀校　甲山中学校

優秀校　連尺小学校

優良校　六ツ美中部小学校

努力校　矢作西小学校

福岡中学校

◆一九九七年視聴覚教育賞

文部大臣賞（学校教育部門）

新香山中学校

◆ＰＴＡ全国協議会会長表彰

甲山中学校父母教師会

◆第十一回愛知県女子中学生英語弁論大会

最優秀賞　竜南中　小祝美津子

◆第三十九回岡崎市中学生英語スピーチフェスティバル入賞者

・二年生の部

新香山　増山　健

竜南　村上　智洋

甲山　黒田　千春

南　前川　彩菜

・三年生の部

甲山　小嶋　佳恵

南　池田　大祐

附属　古谷　朝子

矢作北　矢田　将之

六ツ美北　菅沼　明美

竜南　村上　芽衣

◆秋季国体県選手団

体操　竜南中三年　中瀬直子

◆平成九年度岡崎市健康優良児童生徒優秀賞

〈小学校〉

美合　石原友紀　男川　野村友絵

大樹寺　鈴木祐介　竜美丘　川口実香

六北部　長坂　仁　矢作北　永瀬麻里

上地　嶋田真之介　矢作南　青井美樹

小豆坂　富樫由裕　城南　三好景子

〈中学校〉

美川　倉橋孝匡　城北　西久保彩

城北　秋田　豊　福岡　高橋身奈

岩津　谷口賢一　矢作　瀬戸順代

矢作　登内真平　竜南　川島　葵

六ツ美北　酒井靖弘　北　山本　和

◆平成九年度岡崎市よい歯の児童生徒優秀賞

〈小学校〉

竜美丘　鈴木将也　六名　服部満喜子

連尺　日下　航　連尺　永谷美穂

井田　佐々木嘉文　本宿　佐野朝美

矢作南　梅本啓介　大門　神尾小百合

小豆坂　蒲野盛孝　矢作北　岡田恭子

〈中学校〉

美川　石原嘉津典　美川　菅原綾子

岩津　曽我部裕介　竜海　小椋由紀子

矢作　山本高世　河合　由良佳子

六ツ美　北　雅之　竜南　田中美保

北　鈴木隆二　北　岸本綾子

平成九年度第二十五回岡崎市教育文化賞授賞式（十一月十五日）

フォト・ヒストリー 岡崎の教育

生徒も協力―葵中校舎建設（昭和23年）

昭和二十二年四月、六・三制義務教育が実施され、広幡小に間借りして葵中学校が誕生した。しかし、まだ校舎はなかった。伊賀川の種畜場の一角を譲り受けて、墓地を移し、山を崩し、谷を埋めて葵が丘の建設が進められ、昭和二十三年十二月、現在の地に校舎が完成する。

校舎建築、そして運動場の整備など、生徒が作業に自主的に参加し、新しい学校作りは進んだ。そのエネルギーが、昭和二十四年、新制中学初の公認五十メートルプール建設へと向かっていく。

写真提供　葵中

・表紙写真　岡崎小　加藤博史
・カット　福岡中　土井誠司

オアシス

思い出たっぷりの五十年間。時代の流れとともに学校施設も大きく変化してきている。黒板とチョークの時代からパソコンやOA機器の導入。これを、一体だれが予想したであろうか。

社会の変化に対応しつつも、教育の本質を見失ってはならない。

注連縄（しめ）の「しめ」は、占有の意。注連縄は、神の占有される区域を示す縄、神界と人界との境界を明らかにする縄でもある。

注連縄を飾って迎えた新年も、はや七日間が過ぎる。今一度心を澄まして、三学期を迎えたい。

「相反する心の葛藤が仕事の労力となる」

迷いの中で決してあきらめないという思いを持ち、のみをふるう。一刻礼拝の念をもって作り続ける長岡さんの仏像は、多くの人の心を和ませる。仏師として、後世にその価値を問う生き方に、人としての心の強さを感じる。

素直な目。教師にとって子供の澄んだ瞳に会えることは至福である。戦後復興の槌音が響く中、葵中の新しい学校作りに参加した子供たち。師弟同汗の喜びに満ちた素直な目である。「指示はすれども指導せず」と言われる今、ともに汗する姿を取り戻したい。

この本を

＊楽毅　宮城谷昌光
新潮社　¥1700

＊たまごっち誕生記　横井　昭裕
ＫＫベストセラーズ　¥1400

＊パソコン活用法　下島　朗
丸善ライブラリー　¥740

＊学校ごっこ　永　六輔
ＮＨＫ出版　¥1300

＊モデルなき家族の時代　天野　寛子著
はるか書房　¥1800

本書は豊かな生活にどっぷりとつかる私たちへの緊急の提言であり，「新たな生活文化を創りあげていくこと」の必要性と実現の道筋を明らかにしたものである。

現在の子供たちは，確かに物質的な面では恵まれている。しかし，あらゆる意味での家庭の力が低下し，「モデルなき家庭の時代」だからこそ，地域のサポート力が必要となり，子供たちに「生きる力を育む」ための，新たな生活文化を創りあげていくべきだと著者は訴えている。